

わたしがえらんだ田んぼでお米ができるかな

宇土市立走潟小学校 1・2年生全員

1 研究の目的

走潟小学校には学校田があり私達は毎年田植えと稲刈りをします。しかし田んぼのイネは、いつもは観察できません。そこで、身の回りから田んぼになりそうな(イネを植えられそうな)入れ物を見つけ、身近な場所でイネを育てることにしました。まず自分の選んだ容器で米ができるかを調べることを第1のめあてとし、次に容器の種類や使った土の量でイネの成長や米のでき方にちがいがあるかを調べることにしました。

2 研究の方法

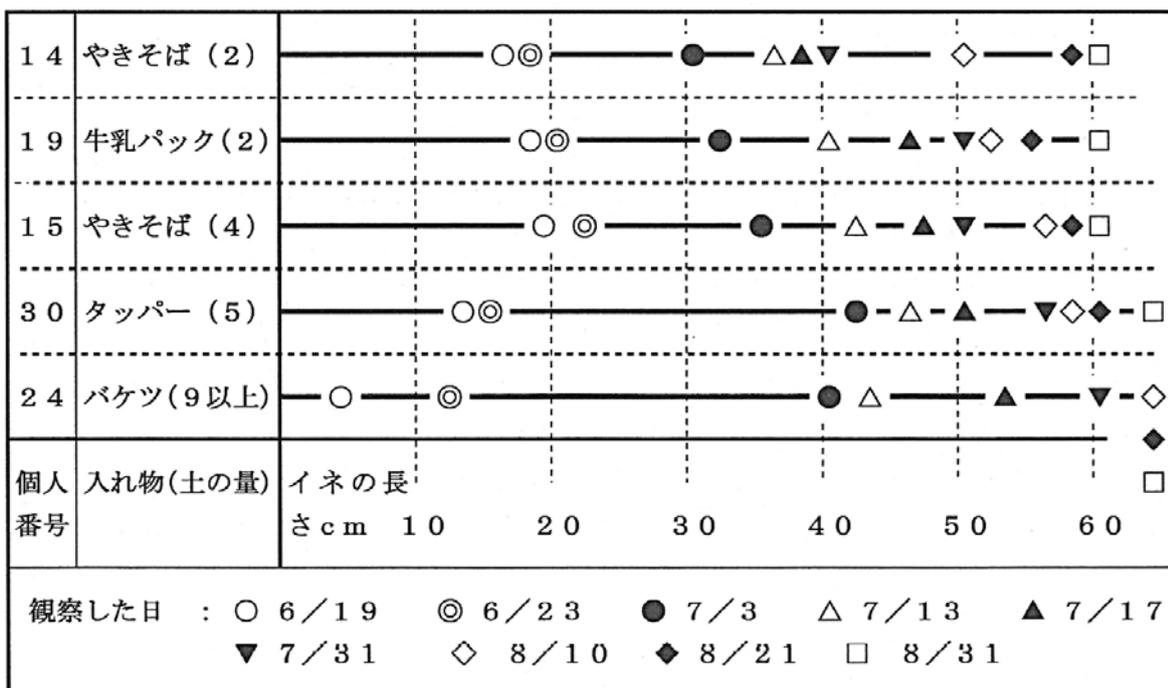
(1) おもな研究のやり方は次のとおりです。①去年とれた粃をまいて苗を育てる ②苗が10cm程に育ったら自分の容器に田植えをする。③およそ10日おきにイネの長さや様子を記録する ④ついた稲穂の数を比べる ⑤できた米を同じ容器に取り入れ、量を比べる。※イネの長さについては2年生はものさしではかる。1年生は1mぐらいの棒にテープで印をつけ、長さの変化がわかるようにする。その後2年生がテープのついたところまでの長さをものさしで測定する。※夏休みの前後で自分の背とイネの高さとを比べる。夏休みは当番の児童が全員の長さを測定する。

(2) 私達が田んぼとして選んだ入れ物と使った土の量は次のとおりです。

うどんカップ・ラーメンカップ・牛乳パック・焼きそばパック・タッパー・ヨーグルトの入れ物・発泡スチロールの箱・バケツなど。土の量はコップに2, 3, 4, 5杯と9杯以上

3 研究の結果

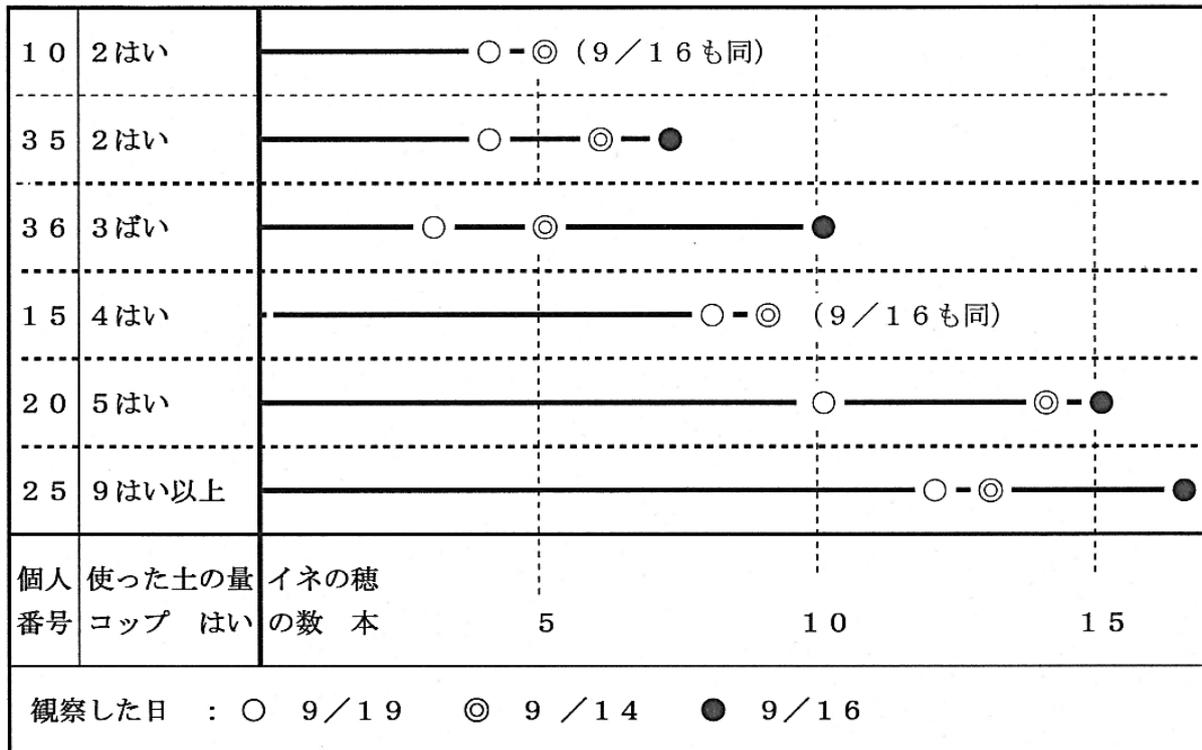
(1) イネののび方と、使った入れ物や使った土の量について(10月6日までの観察から)



土を多く使うほど早く大きくなると思っていましたが、イネの長さが20cm~30cmぐらいまでは土が少なくても早く大きくなることもありました。牛乳パックのようなせまい入れ物よりも発泡スチロールの箱のような広い容器の方がイネはじょうぶに育ちました。イネは20cmから50cmぐらいまではいっぺんに大きくなりましたが、それをすぎるとあまり大きくなりませんでした。

(2) 使った土の量によってできたお米の量はどうか

ア 使った土の量とできたイネの穂のかず



使った土の量が多いほど、穂の数が多いことがわかりました。また、牛乳パックで少ない土で育てるより、発泡スチロールの箱に土を多く入れて育てたイネの方がじょうぶでした。

イ 使った土の量とできたお米

10月12日に穂についてお米を一つぶ残らずにとりました。このころになると、すっかり穂は茶色になり、お米の重さで曲がっていました。取れたお米を36人が同じカップに入れ、使った土の量ごとに分けて並べました。途中でイネがかれかけたり、使った土の量をまちがって記録した人以外のお米は、土が多いほどやはり多かったようです。(写真は左から使った土が2杯、



5杯、9杯以上の場合、実際にとれた米をうつしたものです。)

4 まとめ

田んぼでなくても私達が見つめてきた入れ物に土と水を入れることで、お米を作ることができました。また、できた稲の穂には小さな花もついていました。広い場所に多くの土と水を用意して育てるともっと多くの米ができるはずですが、学校の田んぼでのいねかりが楽しみです。